

2025年3月期

# 決算説明会

2025年5月22日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード：6298 東証プライム)

<https://www.yac.co.jp>

## ▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

この報告資料に記載された当社の将来の見通しは、現時点で利用可能な情報に基づいています。しかし、以下の要因により、実際の売上高および利益は予測値と大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。

- 当社の主な顧客である半導体業界などは、技術革新が急速に進み、競争が激しい市場です。
- 世界経済、為替レートの変動、業界の市況や設備投資の動向といった外部要因が、当社の業績に直接的または間接的に影響を及ぼす可能性があります。

## 内容概要

- |                     |           |       |
|---------------------|-----------|-------|
| 1. ご挨拶              | HD代表取締役社長 | 百瀬 武文 |
| 2. 2025年3月期通期連結決算総括 | HD取締役常務   | 富山 督  |
| 3. 各関連事業の実績と今後の展望   |           |       |
| -①半導体・メカトロニクス関連事業   | HD取締役副社長  | 伊藤 利彦 |
| -②医療・ヘルスケア関連事業      | HD代表取締役社長 | 百瀬 武文 |
| -③環境・社会インフラ関連事業     | HD取締役専務   | 大倉 章裕 |
| 4. ワイエイシイグループの今後の展開 | HD代表取締役社長 | 百瀬 武文 |
| 5. Q&A              |           |       |



## 1. ご挨拶

ワイエイシーホールディングス株式会社

代表取締役社長 **百瀬 武文**



## 2. 2025年3月期通期決算総括

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役常務執行役員 **富山 督**

## 1. 全体総括

### 【収支面】

- 「減収に伴う粗利減」に「前期計上の一過性増益要因剥落」も加わり、各段階利益の減益幅はボトムラインに至るにつれ拡大

### 【財政面】

- 売上債権の大幅回収による総資産圧縮により「自己資本比率は40%台回復」

## 2. 収支状況（各段階利益）

### 粗利益

- 利幅改善が奏功し粗利率は上昇。他方、減収による粗利減が改善効果を減殺

### 営業利益

- 粗利減に加えベースアップ等に起因する経費増も相俟って前期比30%強の減益

### 経常利益

- 為替差損益の悪化、中国顧客倒産に伴う引当金計上等、営業外収支がマイナスに転じた事によりさらに減益幅が拡大

### 当期利益

- 上記減益要因に加え税金負担増もあり、結果として前期利益の4割程度の水準に止まる

## 3. 財政状態

### 総括

- 売上債権の著減から総資産は圧縮良化。

### キャッシュフロー

- 上記運転資金要因の改善に伴い、営業キャッシュフローは大幅好転。  
結果としてフリーキャッシュフローも改善。

## 4. セグメント別情報について

### 収支状況

- 各セグメント、いずれも「営業黒字」を計上。

### 受注状況について

- 総体として「受注高」「受注残」何れも堅調に推移。

## 5. 今年度事業トピックスについて

### 新セグメント

- 当社の中長期事業戦略を踏まえ「事業ポートフォリオの見直し」を実施。従来の「4セグメント」から「3セグメント」へ再編集約

### ライナス追加出資

- 米国ライナスバイオ・テクノロジー社に対して前期に引続き追加出資5M\$を実施し外部株主としては筆頭株主としての地位を確保
- JVに関しては、5月14日付け開示資料を参照

### TT-HDの新規取得について

- 2024年12月末に、TTホールディングス（実質的には現テクノオプティクス社）の株式67%を取得済。2025年度は同社収益が通年寄与。

## 6. 株主還元について

- 更なる流動性確保を目的として2024年12月末をもって「1：2」の株式分割を実施  
[発行済み株式総数：9,758,947株 → 19,517,894株]

## 7. 2026年3月期通期予想について

### 通期業績予想

- 増収増益を企図（売上高：300億円、営業利益 20億円、当期利益 12億円）

### 通期配当予想

- 増配を予定（@37.5円/株 ⇒ @40.0円/株：+2.5円/株）  
[25/3期（中間 17.5円/株、期末 20.0円/株）⇒ 26/3期（中間20円/株、期末20円/株）]

- 減収減益決算— 減収に加え前期の一過性増益要因剥落が各段階利益を押下げ

【粗利減 (▲543M) = 減収要因 (▲997M) + 粗利率改善 (+454M)】

	2022/3期 実績	2023/3期 実績①	2024/3期 実績②	2025/3期 実績③	増減額 ③ - ②	増減率
売上高	22,796	24,114	26,809	23,041	▲3,767	▲14.1%
粗利益	6,133	6,087	7,100	6,556	▲543	▲7.7%
(同率)	(26.9%)	(25.2%)	(26.5%)	(28.5%)		
営業利益	1,566	1,495	2,006	1,354	▲651	▲32.5%
(同率)	(6.9%)	(6.2%)	(7.5%)	(5.9%)		
経常利益	1,491	1,541	2,074	1,124	▲950	▲45.8%
当期利益	1,107	921	1,417	559	▲858	▲60.5%

## 過去5年間の連結損益状況推移

(百万円)

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	24,195	22,796	24,114	26,809	23,041
粗利	5,107	6,133	6,087	7,100	6,556
(同率)	(21.1%)	(26.9%)	(25.2%)	(26.5%)	(28.5%)
営業利益	727	1,566	1,495	2,006	1,354
(同率)	(3.0%)	(6.9%)	(6.2%)	(7.5%)	(5.9%)
経常利益	739	1,491	1,541	2,074	1,124
(同率)	(3.1%)	(6.5%)	(6.4%)	(7.7%)	(4.9%)
当期利益	337	1,107	921	1,417	559
(同率)	(1.4%)	(4.9%)	(3.8%)	(5.3%)	(2.4%)

➤ 四半期推移：1Q不振が期中を通じてマイナスに作用

2025年3月期 四半期別推移	(百万円)			
	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)
売上高	5,430	5,861	4,913	6,836
粗利益	1,366	1,731	1,456	2,001
(同率)	(25.2%)	(29.5%)	(29.6%)	(29.3%)
販管費	1,272	1,224	1,297	1,408
営業利益	94	507	159	593
(同率)	(1.7%)	(8.7%)	(3.2%)	(8.7%)
経常利益	67	247	266	543
(同率)	(1.2%)	(4.2%)	(5.4%)	(7.9%)
当期利益	▲34	58	160	375

- 今期は各セグメント何れも営業黒字を確保
- 他方、「環境・社会インフラ事業の不振」が全体損益を押下げ

(百万円)

	事業セグメント			小計	調整	合計
	半導体・ メカトロニクス	医療・ ヘルスケア	環境・社会 インフラ			
24/3売上	11,015	5,508	10,286	26,809	—	26,809
24/3営利	931	509	1,059	2,500	▲493	2,006
<b>25/3売上</b>	11,377	5,022	6,641	23,041	—	23,041
<b>25/3営利</b>	<b>1,006</b>	<b>415</b>	<b>235</b>	1,657	▲303	1,354
売上増減	+362	▲485	▲3,644	▲3,767	—	▲3,767
利益増減	+74	▲93	▲823	▲842	+190	▲651

(単位：百万円)

	24/3期 報告セグメント				25/3期 報告セグメント				合計 増減 金額
	半導体・ メカトロ	医療・ ヘルスケア	環境・社会 インフラ	合計	半導体・ メカトロ	医療・ ヘルスケア	環境・社会 インフラ	合計	
日本	7,660	5,243	8,128	21,032	8,136	4,884	5,506	18,526	▲2,505
中国	657	—	1,760	2,417	540	—	573	1,113	▲1,304
アジア 他	2,610	—	356	2,966	2,472	—	552	3,025	58
その他	87	264	41	393	228	138	10	376	▲16
合計	11,015	5,508	10,286	26,809	11,377	5,022	6,641	23,041	▲3,767

## 総括：

➤ 総資産（410億円）と24/3末比：▲6.3%（▲27億円）の縮減

— 就中、売上債権の減少（▲41億円）が全体資産を圧縮 —

	2023年3期	2024年3期①	2025年3期②	増減②-①
流動資産	30,108	33,013	29,760	▲3,253
固定資産	8,631	10,814	11,325	(+511)
<b>総資産 計</b>	<b>38,740</b>	<b>43,827</b>	<b>41,086</b>	<b>▲2,741</b>
流動負債	13,680	15,665	14,961	▲703
固定負債	9,082	11,171	9,030	▲2,141
<b>純資産 計</b>	<b>15,977</b>	<b>16,989</b>	<b>17,093</b>	<b>+103</b>

➤ 連結自己資本比率

— 総資産圧縮に伴い連結自己資本比率は40%台に改善 —

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
<b>自己資本比率</b>	35.3%	37.5%	41.3%	41.1%	38.7%	<b>41.1%</b>

➤ 営業C/Fは運転資金要因の大幅改善により黒字転換

CF.

23/3期：損益要因 (+1,624M) + 運転資金要因 (▲3,260M) = 営業C/F (▲1,636M)

24/3期：損益要因 (+1,903M) + 運転資金要因 (▲1,021M) = 営業C/F (+882M)

25/3期：損益要因 (+1,024M) + 運転資金要因 (+1,646M) = 営業C/F (+2,670M)

(単位：百万円)

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
前期末現金同等物	9,932	8,619	6,552	7,558
営業活動C/F	+1,093	▲1,636	+882	+2,670
投資活動C/F	▲195	▲742	▲2,178	▲1,077
財務活動C/F	▲2,302	+272	+2,252	▲2,069
為替換算	+92	+39	+49	+72
当期末現金同等物	8,619	6,552	7,558	7,094

- 今年度は「売上高当期利益率（収益性）の悪化」に「総資産回転率（資産効率）の低下」が相俟ってROEは「3.3%」と大幅低下を余儀なくされる

	2022年3期	2023年3期	2024年3期	2025年3期
売上高当期利益率 ①	4.829%	3.820%	5.287%	2.427%
総資産回転率②	0.617回転	0.622回転	0.611回転	0.561回転
財務レバレッジ③	2.413倍	2.480倍	2.665倍	2.434倍
ROE (①×②×③)	7.5%	5.9%	8.62%	3.31%

$$ROE = (\text{収益性①}) \times (\text{資産効率性②}) \times (\text{財政状態：負債の活用度③})$$

➤ 25年3月期全体では「受注高」・「受注残」共に前期比続伸

旧セグメント	2022/3期 実績（12か月）		2023/3期 実績（12か月）		2024/3期 実績（12か月）		備考
	受注高	受注残	受注高	受注残	受注高	受注残	
メカトロ	12,151	4,524	14,033	7,512	8,646	5,031	
ディスプレイ	6,549	6,665	6,181	8,542	1,122	3,894	
産業機器	985	123	1,041	144	1,743	661	
電子機器	8,945	7,861	9,167	9,286	7,383	7,983	
合計	28,632	19,174	30,425	25,485	18,895	17,570	

【新セグメント別受注状況】

新セグメント	24年3月期		25年3月期		増減	
	受注高	受注残	受注高	受注残	受注高	受注残
半導体・メカトロ	9,228	5,461	11,402	5,485	+2,173	+24
医療・ヘルスケア	4,282	5,620	4,043	4,642	▲239	▲978
環境・社会インフラ	5,384	6,488	8,214	8,060	+2,829	+1,572
合計	18,895	17,570	23,659	18,188	+4,864	+617





➤ 2026年3月期 通期業績予想 → 増収増益を企図

	売上	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
2025年3月期実績	23,041	1,354	1,124	559	30.39
2026年3月期予想	30,000	2,000	1,800	1,200	65.15
増減率	30.2%	47.7%	60.1%	114.7%	—

➤ 2026年3月期 通期配当予想 → 1株当たり2.5円の増配を予定

	2023年3月期実績	2024年3月期実績	2025年3月期期末は予想	2026年3月期予想
中間	12.5	12.5	17.5	20
期末	25	25	20	20
年間	37.5	37.5	37.5	40
配当性向	74.6%	48.6%	123.4%	61.4%

※ 2024年12月31日を基準日として1：2の株式分割を実施。分割以前の配当金を分割後の1株当たり配当金に修正して表記  
 ※ 2023年3月期期末配当は、創立50周年記念配当12.5円（分割前は25円）を含む



## セグメント情報

### 3-① 半導体・メカトロニクス関連事業 決算概要と今後の展望

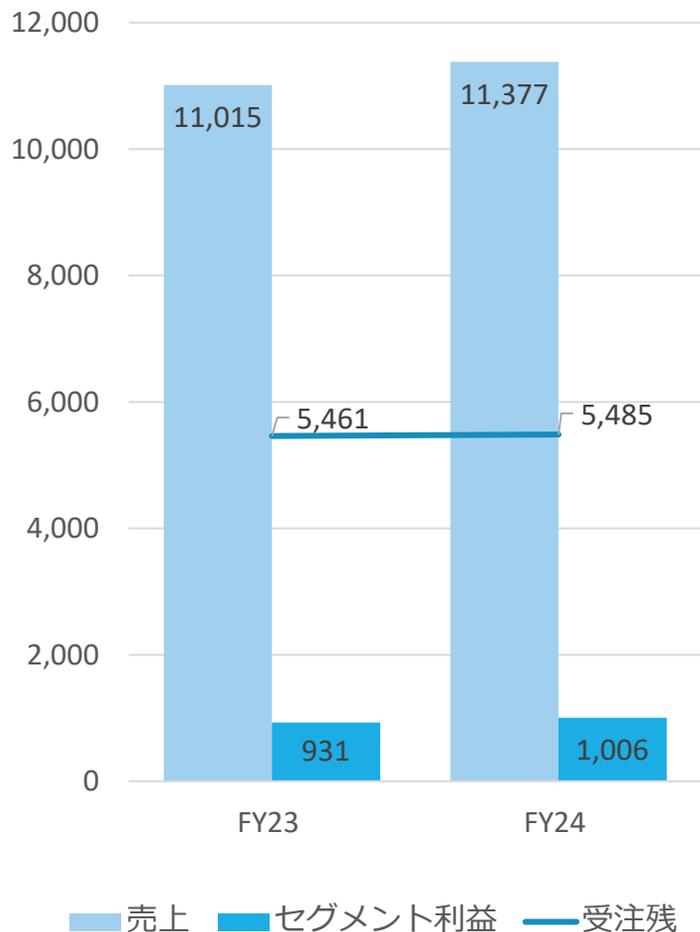
ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役副社長

**伊藤利彦**



## 売上高とセグメント利益



## 通期分析

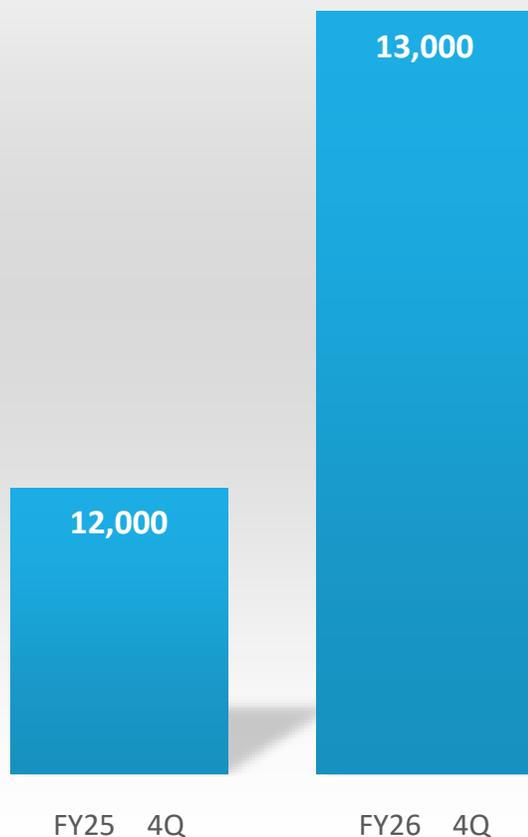
- ✓ 前年同期比、増収増益（微増）
- ✓ クリーンコンベア等自動搬送装置、イオンミリング装置売上げ好調
- ✓ 電子部品市場低迷が続いており、キャリアテープ、テーピング装置等、低迷、ただし、今年より復調の兆しあり

## トピックス

- 車載関連パワー半導体SiC向け投資が数年後倒しの予測、ただし、家電等多用途でのSiC採用の可能性あり
- 電子部品市場、大口のテーピング装置受注済み、キャリアテープ販売への相乗効果あり
- 引続き、生成AI向け投資等が活発であり、クリーンコンベア関連受注済み

## 中期計画売上高

■ 売上高



## 中期計画に対して

- ✓ 半導体関連がメインのセグメント内各社間、顧客情報の共相互営業支援、技術情報の共有、並びに応用、人員の相互融通等、相乗効果が期待

## 今後の見通し

- 集中購買、依命システム活用での原価低減による粗利率アップ
- キャリアテープ関連は、適地生産、効率的設備投資で生産性を上げ、また、テーピング装置販売先へのキャリアテープ売上げの相乗効果あり
- BEV増加によるSiC向けレーザーアニーラ、チップハンドラ販売増
- 半導体後工程自動化推進が加速し、クリーンコンベアのPLP搬送、AMRシステムとの協働を展開



## セグメント情報

### 3-② 医療・ヘルスケア関連事業 決算概要と今後の展望

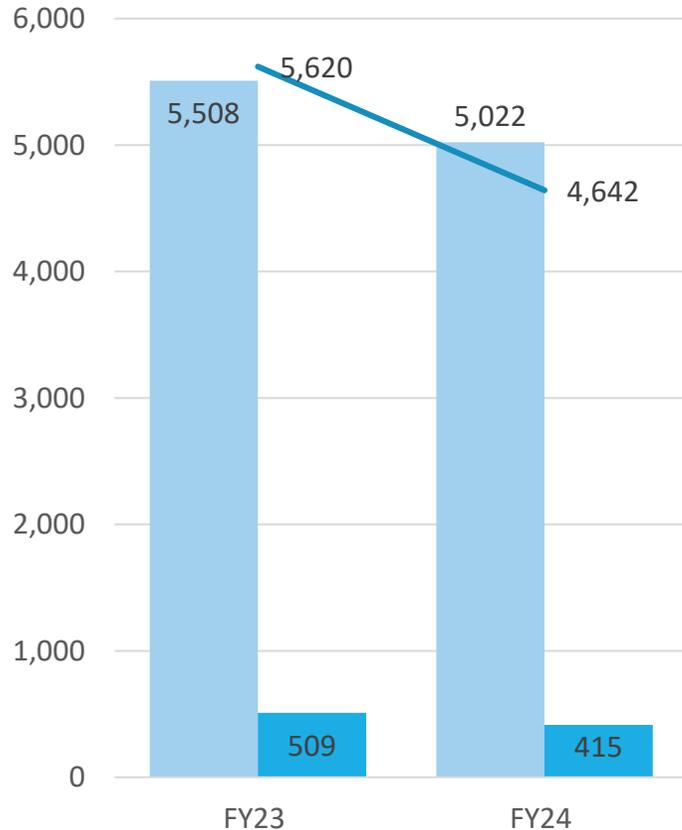
ワイエイシーホールディングス株式会社

代表取締役社長

**百瀬 武文**



## 売上高とセグメント利益



■ 売上 ■ セグメント利益 — 受注残

## 通期分析

- ✓ 人工透析機の新機種増産体制構築に時間を要した結果、売上は実質増（一部事業部門を他セグメントへ移管、売上額8億円相当）。
- ✓ 資材価格高騰分の顧客転嫁に努めるも、次世代人工透析機の開発、改良に伴う経費が増加した結果、セグメント利益は18.3%減少。

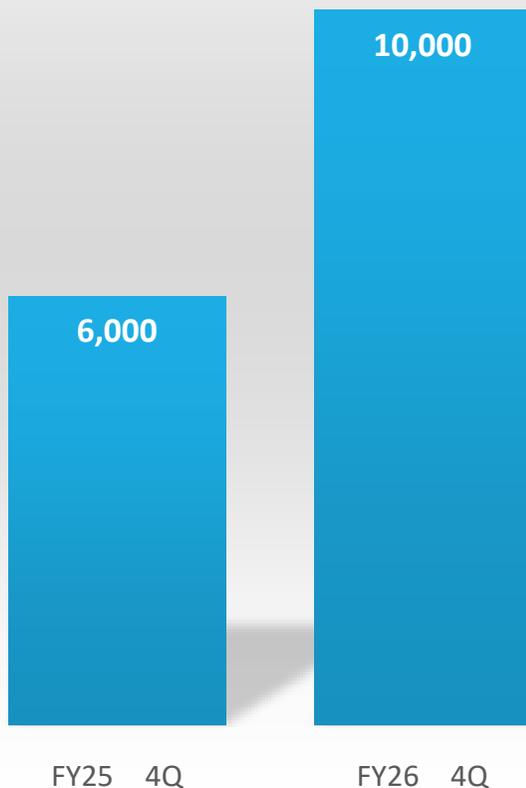
## トピックス

## 《セグメント躍進の2024年度》

- 次世代透析機の開発と販売開始
- 血液を使った免疫測定装置（NeuroDetect）の開発とお披露目（2024/11/20）
- 毛髪を使った日本国内での検査ビジネススタートを発表
- 米国ライナスバイオ・テクノロジー社のアローラ社長と合併会社設立の記者会見（2024/11/19）

## 中期計画売上高

■ 売上高



## 中期計画に対して

### <パートナー企業との連携>

- ✓ 毛髪を利用した疾病解析サービス事業で、日本でのJVの立上げと国内ラボでの検査体制構築
- ✓ パートナー企業の世界的な事業の拡大に合わせた毛髪切断装置等の拡販  
(スライサー /マウンター /毛髪洗浄機)
- ✓ 歯を使った検査装置 (TSR)

### <当社GR企業としての展開>

- ✓ 次世代人工透析機の増産と生産効率の向上
- ✓ 血液等を使った抗体測定装置の開発、データ集積、認知度、信頼度の向上と拡販。併せて試薬の販売

## 今後の見通し

- 景気変動の影響を受けにくいセグメントの特性を活かし、計画を着実に実行することで中期計画の達成は可能。
- 医療機器認証の取得による市場規模の拡大を狙う。



## セグメント情報

### 3-③ 環境・社会インフラ関連事業 決算概要と今後の展望

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役専務執行役員

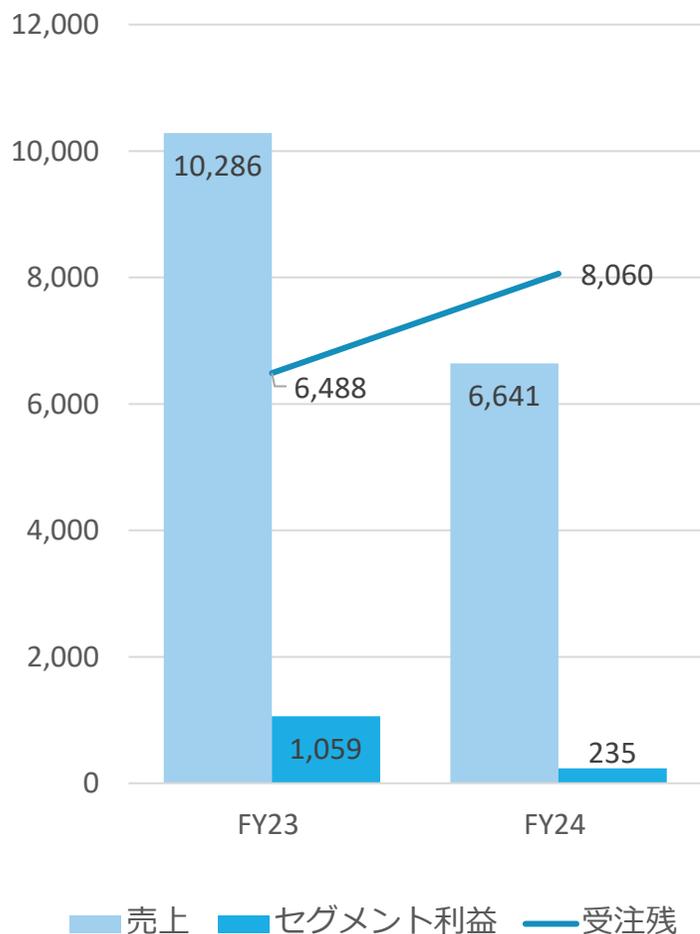
大倉電気株式会社

代表取締役

**大倉 章裕**



## 売上高とセグメント利益



## 通期分析

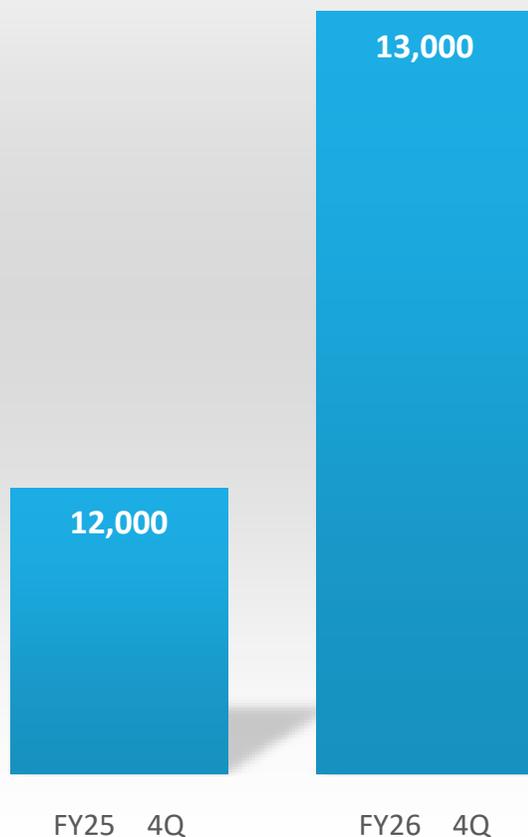
- ✓ 前年度同期比、減収減益
- ✓ 投資先延ばしによるFPD市場回復の遅れ
- ✓ 部品の入手難による前倒し発注による在庫調整が継続した
- ✓ 下期から受注に関しては、FPD市場、電力市場で引合いが活発化
- ✓ 昨年度末比受注残高増

## 今後の見通し

- 脱炭素化に向けた電気ヒーター需要増
- カーボンニュートラルをテーマにした紙自動包装機の需要はEC会社、アパレル会社等、需要は旺盛。EC大手と商談中
- 再生エネルギー関連の蓄電池充電制御装置などの需要増
- AI、光学検査装置事業の取り込による提案型セールスの展開

## 中期計画売上高

■ 売上高



## 中期計画に対して

### 成長市場、分野に向けての製品開発、提供

- ✓ 成長の見込める半導体パッケージング市場（FOPLP）
- ✓ EC、物流倉庫、アパレル、通販市場
- ✓ 電力再生エネルギー市場
- ✓ 省人化需要拡大によるインフラ点検自動化
- ✓ 高付加価値の見込める検査市場への展開

## 今後の見通し

- EC市場への紙包装機本格導入開始
- ITパネルのOLED化による設備需要増に向けた開発と製品提供
- 再エネなどにより複雑化する電力系統管理への情報伝送装置の新規開発と市場投入
- 人手不足の問題に対応した社会インフラを支える点検業務などの自動化への製品提供
- 検査装置のシステム提案による売上、利益規模拡大



## 4 ワイエイシイグループの今後の展開

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長

**百瀬 武文**

## 【創業理念】 (1973年)

### 継続発展

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

## 【成長理念】 (1985年)

### 社会貢献

1. 社員の豊かさを追求する（経済的・精神的）
2. 国・地方自治体に、より多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

## 【究極の理念】 (2020年)

### SDGs

- ～より多く社会に貢献するために～
1. 社員・グループの成長
  2. 全員経営・連携と競争
  3. SDGs経営の推進
  4. 納税額の拡大

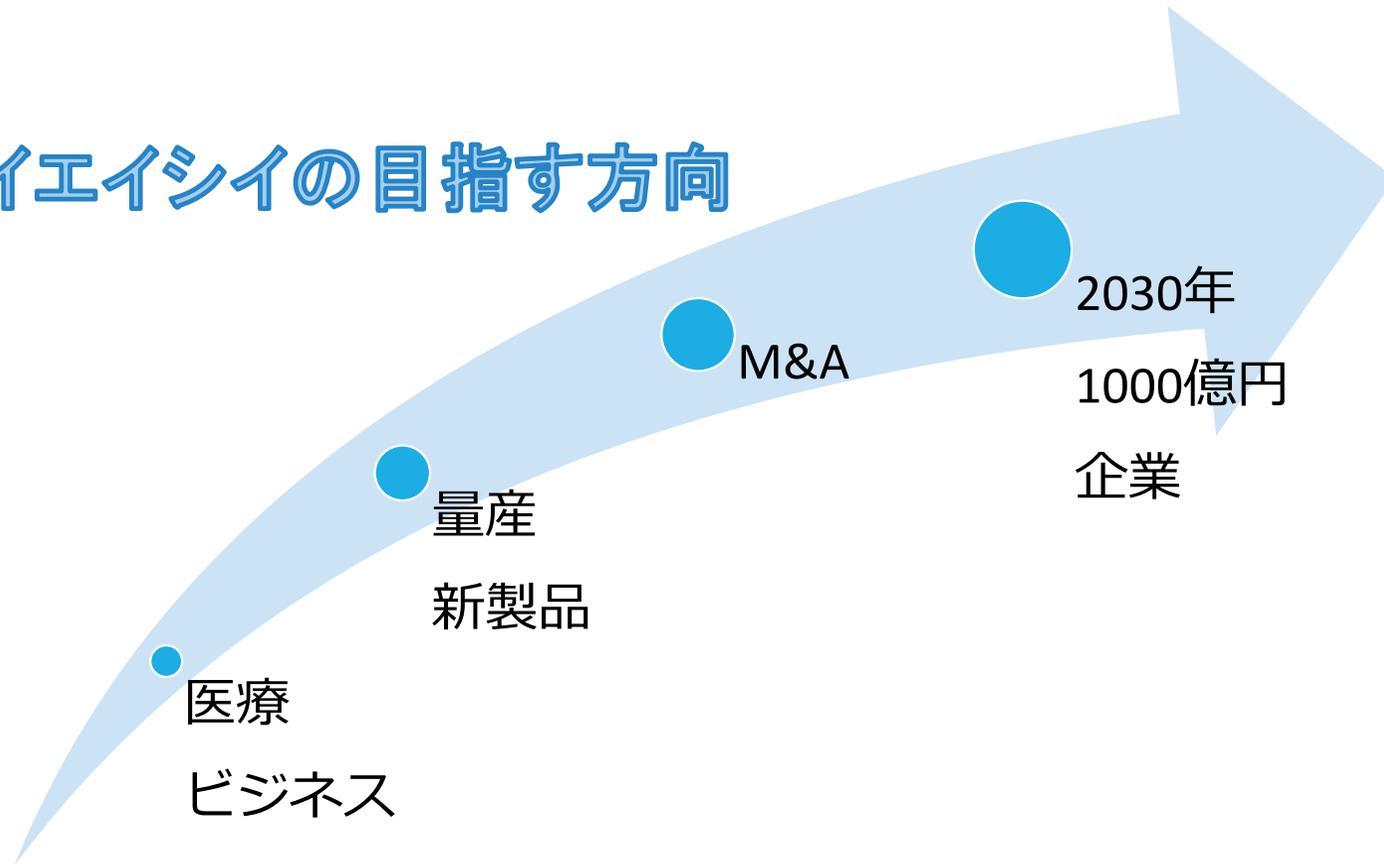
## 1. 基本的条件 あるべき姿

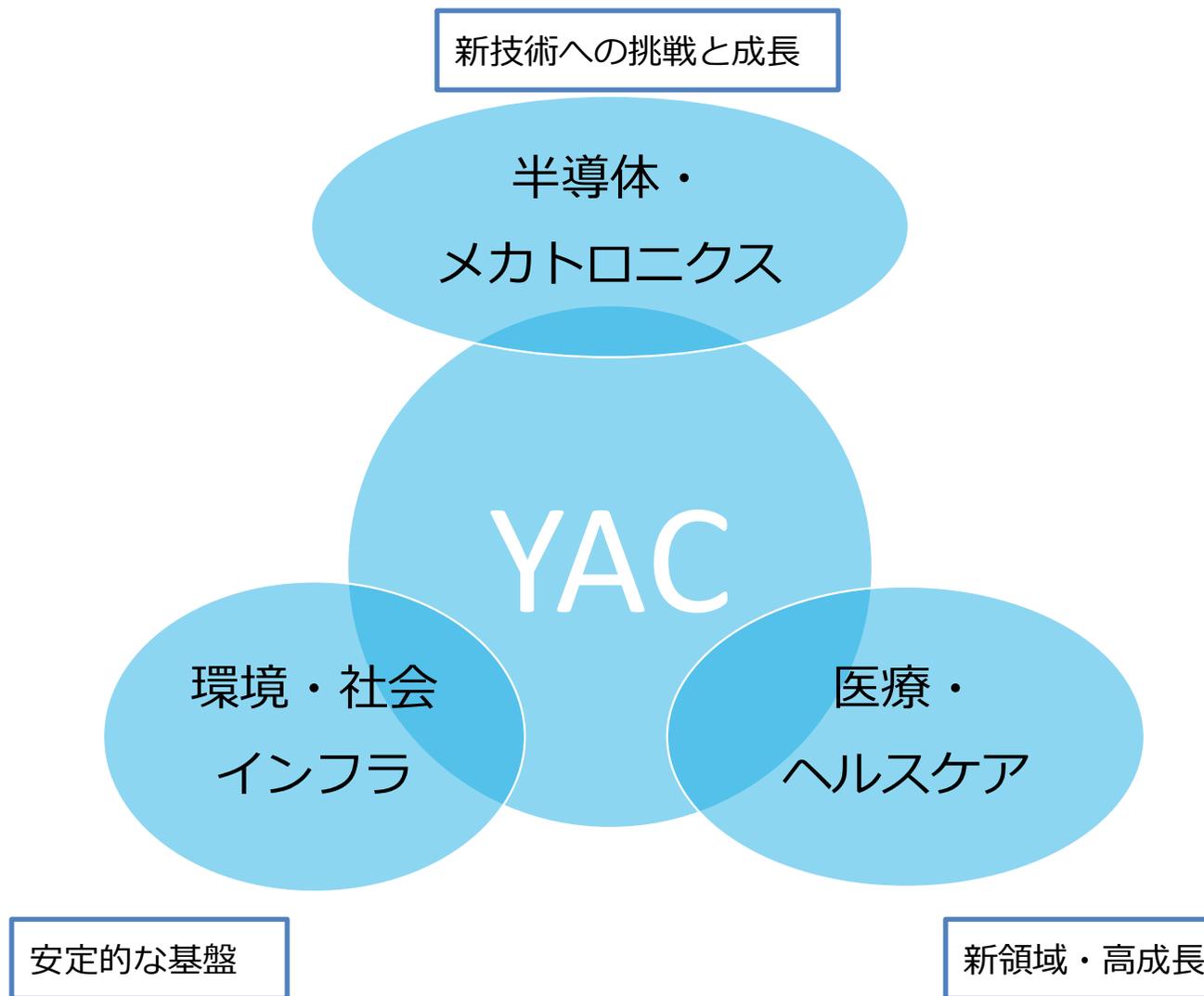
①継続し発展する ……	部下・家族・自分・社会・国家のため
②赤字は社会悪 ……	経営者として最も恥ずかしいことである
③社会貢献 ……	常に成長し、かつ利益を通じて
④SDGs ……	持続可能な社会へ、バイオ社、デンコー社、マシナリー社等で全力取組中
⑤プライム市場 …… (株主は投資家中心)	成長あるのみ。宿命である。使命である。 成長実現は、すべてがハッピー。
⑥1,000億円企業の仲間入り… 1) 各社は100億円企業を成就 2) 100億円越えの量産新製品の成功	現在8テーマを進行中。更に増やすべく、 新たな候補大募集中。

## 2. 当社グループの文化は

成長へ、そして更なる成長へと、困難な事態にも決してあきらめず、  
全員経営の理念のもと、明るく元気よく、ポジティブな挑戦を続け、成  
長への喜びを感じながら、より多く社会貢献を目指す企業集団である。

## ワイエイシイの目指す方向





2030年100億円  
売上会社

2030年50億円  
売上会社

M&A

量産新製品

5000万円/人

## 営業改革

- 営業活動の組織化
- 営業支援ツールの活用

## 粗利率アップ

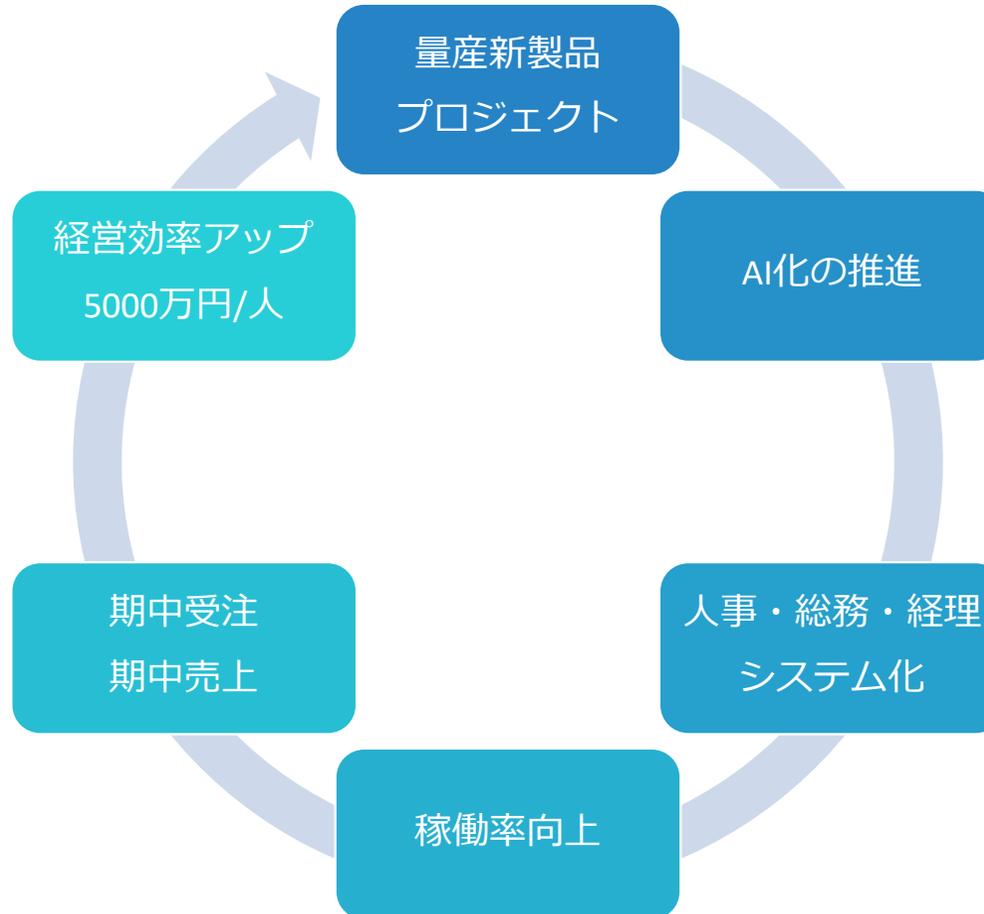
- 依命システムの完全実施
- 仕入価格の低減、販売価格アップ

## 財務の健全化

- 回収計画を念頭に販売計画
- 適正在庫の管理徹底

## 全員経営

- 社長の率先垂範
- 社員全員で知恵を出す





## 5. 質疑応答

ご質問のある方は、挙手をお願いいたします

司会よりご指名後、ご発言をお願いいたします

さあ今日も、明るく、元気よく  
ときめきと感動の日々であれ！

しなやか先端技術企業集団  
ワイエイシーグループ